

臨調・行革粉碎！三里塚ジエット闘争勝利！

人勧・仲裁を即時実施せよ!
年末手当削減・格差を許すな! 12.16サ1波闘争に起とう

なにか、(1)3・31了解事項にて表明した当局の態度は、後も変りない。(2)夏季・年末手当のハネ返りについては、年末手当の問題とは切り離し、別途の扱いについては、合意する」との態度表明が行われた。

これに対し、本部は、①夏季・年末手当のハネ返りについて、今後の配分交渉をめぐる面への足がかりを残したこと。②「格差問題」について、再度当局に態度表明させたこと。(3)以上支払い日を延ばすことは、組合員の生活設計上支障をきたすとの判断にたち、不満なが

本部は、(二月三日午後二時) 北朝鮮との間に本講話をした。この約束をとりかねた(なども含めて)当面の交渉を激しく追及するオナ回交渉を12日深夜にやった。展開したが、自民党の指示以外には何の主体的対応もとりえない。北朝鮮の姿勢に対し、厳しく抗議して12日、22時10分、交渉を一旦中断した。

12月11日13時、①人勧凍結、②赤字の国鉄・林野には格差をつける、という従来通りの反動的な回答を行った。社会党は、「各公社・現業間に格差をつけさせない」との態度で、さらに折衝した。その結果、自民党は、「国鉄、林野については年末手当を2・44ヶ月分にしたい」との最終回答を行ってきた。

13日より衆院予算委での質疑と推移しているが、改憲志向・軍備増強・行革断行・人効凍結・政治倫理と福祉の切りことなどを露骨に主張し、强行しようとしている中曾根(田中)内閣は、まさに戦後最悪の人民抑圧、超反動内閣としての体質をむきだしにしている。

年間一人、0.8カ月分(=16万円)の削減!

二、各支部は、12月16日始業時より24時までの間、
否・非協力闘争を実施すること。

動労千葉は12月14日、オ4回支部代表者会議を開催し、「仲裁」「人勧」「年末手当」をめぐる情勢認識の竟志一致をはかるとともに、動労千葉としてこの闘争方針を決定した。その確認にひまえ、本部は12月16日「一波闘争」にむけて、以下の「闘争指令オ4号」を発した。全組合員は、うつて一丸となって、闘いを貫徹しよう。

勅令千葉開争指令文4号

(12月4日発)

82.12.15
No.1220
国鉄千葉動力車労働組合
千葉市要町二一八（動力車会館）
(鉄電)二九三五五六・(公衆)053(22)七二〇

千葉市要町二一八(動力車会館)
(鉄電)一九三五・六・(公衆)〇五七(22)七二〇七

（下表）の数を不正しく
手当をつけて説明で、夏
季手当・年末手当と田代ベース、
年度末手当はゼロを前提
とし、約0.8ヶ月分（一人平均
16万円）削減するところ、断
じて許すことのできない大
中貸下に攻撃である。

* $16.9 \text{ヶ月} \times 0.046 (\text{公企体ベア率}) = 0.7774 \text{ヶ月 A}$

* $4.9 \text{ヶ月} \times 0.046 (\text{ " }) = 0.2254 \text{ヶ月 B}$

$\text{A} - \text{B} = 0.552 \text{ヶ月 C}$

C $0.52 \text{ヶ月} - 0.5 (\text{年度料半}) = 0.052 \text{ヶ月} \rightarrow 0.06 \text{ヶ月 D}$

$2.5 \text{ヶ月} - \text{D } 0.06 \text{ヶ月} = 2.44 \text{ヶ月}$

(注) 16.9ヶ月とは、年間総額(12ヶ月+夏季半当1ヶ月+年末2.5ヶ月+年始0.5ヶ月)

(注) 4.9ヶ月とは、冬季半当(" " 19 + 2.5 + " 0.5)

当局を助けてまわる労働本部革馬に彈劾。
この限りの中で、労働本部革馬は、國勞からの4組合
統一対応の呼びかけを拒否し、個別対応を表明するな

「こつした情勢の中で、總評は12月11日、統一ストライキ委員会を準備して、「12月16日、早朝、公務員共闘、公労協2時間以上のストライキ」方針で闘う方針を確認し、国労は「各地本部での時間のスト、それ以外の全駅場は29分のスト」の指令を発した。(国労千葉地本の戦術は、新小岩貨車区・佐倉客貨車区の検修駅場でスト入り)。動労千葉は、闘争の目標を、①人労仲裁の即時完全実施、②夏季3年末半当への仲裁実施、③年末半当への削減・格差抗議、④国鉄監理委設置法案粉碎にすえど、闘争指令が4号に沿うる資産闘争を闘うことを決定した。

全組合員・家族の強固な団結で組織破壊攻撃を粉碎せよ!